令和5年度　学校関係者評価書

鈴鹿市立合川小学校					
評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	1　授業改善 ・わかる授業をめざした指導方法の工夫・改善に取り組む。 （児童アンケート「授業の内容は、よくわかりますか」95%以上） （保護者アンケート「学校は、確かな学力の育成をめざし、わかりやすい授業に努めていますか」95%以上） ・全国学力・学習状況調査及びみえスタディ・チェックの結果分析を行い、授業改善に活かす。 （県平均以上）	●児童アンケート93%(95%) ○保護者アンケート98%(95%) 全国学力・学習状況調査 ６年：国語●、算数●、 第１回みえスタディ・チェック ４年：国語●、算数● ５年：国語○、算数○、理科○	○校内研修会で、全国学力・学習状況調査およびみえスタディ・チェックの採点を行い、苦手な問題などの分析を行い、学習指導の改善に努めた。 ○全国学力・学習状況調査の結果についてs-p表を使った問題分析を研修部で行い、児童が特に苦手とする問題や早期改善が可能な問題を全職員で共有し、学習指導の改善に努めた。 ●国語では、漢字の熟語の問題や、原因と結果をとらえる問題が弱い。 ●算数では図形の意味や性質についての理解が弱い。 ○今年度の全国学力・学習状況調査の結果を受けて、文科省教科調査官が提案する授業改善案を研修部長が学び、校内研修会で共有したことで、授業改善に取り組んだ。 ○全国学力・学習状況調査の結果の分析から見えてきた課題をもとに、児童の自主学習の手引きを作成したことで、学校として自主学習の仕方について共通した指導が	・校長先生を中心に、教職員の方が日々努力されていると思います。 ・よく取り組んでいる。 ・今後も教職員のスキルアップに努めてほしい。 ・確かな学力の向上を目指し、引き続き取り組んでもらい、子どもたちが基礎をしっかり理解して中学へ進んでいけるようにしてほしい。応用力も必要な課題があると頭をひねるので、おもしろいと思う。 ・課題を見つけ児童の弱いところを指導されるとよいと思います。 ・目標を下回る結果となったことは残念だが、しっかりと現状確認を行い弱点（課題）も明確に分かったので課題が明確になり具体的に取り組む姿勢が前向きで次年度に向けて期待しています。 ・以前協議会でも提案させていただきましたが、授業の内容よりも教室の雰囲気作りを最重要課題に挙げていただきた い。「分かりません」が言える環境、間違えても気落ちする必要がない環境を目指してほしいと願います。 ・対策の具体例として読解力向上に向けて図書祭り（担任以外の方の読み聞かせ・読み聞かせボランティアの復活？読書感想文コンテスト（短文で）・短歌コンテスト）などを行い、読むことへの苦手意識を軽減できる取組を継続していただけるといいのかな・・と思う。 ・算数に関しては低学年から空き箱などを展開して工作作りから形の認識力を養えないか・・・ ・平面図から立体の発想を。2次元から3次元へ。	・教職員のスキルアップに努められるよう、行事や校時を見直した上で放課後の時間を確保していきたい。 ・今後も学力調査やみえスタディ・チェックの結果分析を中心に、合川小学校の児童の課題を把握し、日々の授業改善を発信・共有していきたい。 ・年度初めから、学級の心理的安全性を高めていけるような関係づくり・ルールづくりを意識していきたい。 ・職員による読み聞かせやおすすめの本紹介（職員、図書委員から）など、児童が読書を好きになるような活動を進めていきたい。 ・算数の授業では、低学年を中心に、折り紙や工作用紙、空き箱のような具体物を用いた学習活動に取り組んでいきたい。 ・図形領域の学習では、「平行」や「垂直」などの用語を学習する学年以前から、その素地となるような学習活動を行っていきたい。”□
	2　英語教育の推進 ・児童に満足度の高いコミュニケーション活動を提供する。 （児童アンケート「英語の授業や活動は楽しいですか」95%以上）	●児童アンケート87%（95%）	、○ALTの先生が常駐してくださるので、モーニングイングリッシュやイングリッシュタイムを実施することができた。絵本の読み聞かせやクイズをしてもらったり、ゲームや季節に合わせた内容のお話を英語でしてもらったりして多くの児童が楽しみながら英語を学ぶことができた。 ●常駐してくださるので英語以外の他教科や行事にも参加していただいたが、うまく英語に結び付けることはできなかった。	・校長先生を中心に、教職員の方が日々努力されていると思います。 ・階段に貼ってある英単語はよかったと思うが、今はなくなったので、再度設置されてもよいと思う。 ・校舎内のいろいろな場所に英語が書かれていて英語がかなり身近になっていると思います。今後下駄箱やロッカーなどにもローマ字表記をして個人の名前だけでも低学年から覚えてもらえる仕組みがあっても楽しそうだと思います。 ・階段や廊下など、自然と英語に触れあえる環境になっている。 ・特認校の特色を出すのに、授業内での挨拶など繰り返し使うフレーズを英語で言うと自然に身について、保護者も合川小に入れているメリットを感じてもらえそう。 ・授業を楽しくする取組が良いと思います。「楽しい」と児童が感じるのが一番必要かと思います。 ・絵本の読み聞かせやクイズやゲームを通じて、楽しく英会話ができる事は楽しく学べるのでとても良い。 ・普段の授業にプラス縦割り班遊びなどでも英語のゲームで遊ぶ企画などに取り組み、英語に触れる機会が増えるといいのかなと思います。 ・よく頑張っている。特認校の目玉であるので、児童や保護者に関心を持ってもらえるよう、今一度工夫できないか。 ・ALTの先生が常駐してくださっていることで英語への苦手意識は感じていない。ありがたいことです。 ・普段からヘンリー先生には英語で挨拶をする児童の姿を見ていて信頼関係もできている。 ・以前、家庭教育学級の際たまたまお見掛けしたのですが、1、2年生の体育の授業にヘンリー先生が参加していらっしゃいました。先生が2名いる中、ヘンリー先生も立ち位置に困っている様子を感じました。	・児童にとって英語が「楽しい」と思えるように、教職員で情報交換をしながら、モーニングイングリッシュやイングリッシュタイムの内容を考えていく。 ・児童の興味関心が高まる壁面掲示を作成する。ALTの先生にボイスペンで録音をしてもらい、聞き取りができる壁面掲示など、児童が英語に親しめるような壁面掲示を作ってもらう。掲示の場所も、子どもたちが見やすいように検討する。 ・イングリッシュタイムや英語の授業で、児童とALTの先生がより気軽に話せるような関係性を築き、体育や図工等、他の授業時間でも、児童が進んでコミュニケーションを図ろうとするような態度を育てる。
	3　家庭学習の定着 ・宿題や自主学習の指導を通して、家庭学習の習慣化と定着を図る。 （児童アンケート「[15分×学年]の時間、家で勉強していますか」90%以上）	●児童アンケート72%(90%)	○合川小学校版自主学習の手引きを作成し配付したことで、手引きをもとに自主学習に取り組む児童が見られた ●児童アンケートから[15分×学年]の時間、家で学習時間を確保できていない児童が多い状況が見られた。宿題の出し方や、内容や量を検討していく必要がある。	・校長先生を中心に、教職員の方が日々努力されていると思います。 ・個人的に娘はあまり自主学習をしていないので、週に2ページなどルールがあると取り組むと思う。 ・自主学習の手引きを作成していただいたことでかなり自主学習へのハードルが下がったように感じました。勉強アレルギーが起こらないよう楽しく取り組める学習例は保護者としてもかなり助かりました。 ・テーマを与え、宿題後にチェックする。 ・達成状況の向上に努めてほしい。 ・時間だけの評価や満足になっていないかを指導願います。 ・「15分×学年」の時間を再度検討。5年生の75分。6年生の90分は長いと思われる。 ・家庭学習について、時間よりも、まずは習慣にできる様にしたい。 ・15分×学年の受け止め方を児童・保護者が理解しているでしょうか・・理解できているかが心配である。 ・１週間で2つの課題（自主学習・メディア自粛）に取り組むのも難しい気はする。	・自主学習の手引きを活用し、継続した指導を行っていく。 ・家庭学習は、まずは習慣化を図り、次に学習時間を意識させた取組を行っていく。 「15分×学年」の時間は中学校区で統一されているものであるため、年度当初だけでなく、年間通して啓発を行うことが必要である。
	4　外国人児童の日本語指導の推進 ・JSLバンドスケールを活用し、日本語指導を推進する。 （JSLバンドスケール結果の検証）	個別の指導計画に従って、日本語指導を実施。 バンドスケール判定会議は、１年生、転入生は第１回を６月に実施。１年生、転入生の第２回目、他児童第１回目は３学期に実施予定。	○日本語指導員の先生が、外国人児童一人一人に合った指導法、教材を用いてご指導いただいている。担任との連携も密で、日本語を話すことが難しい児童も、日々の生活で日本語を積極的に使っている。 ○日々の授業でも、視覚資料の活用、ルビ、文字以外の表現も含めた学習ができるよう、各担任が配慮して指導している。日本語指導員選定の教材を、担任が継続して取り組ませることもできている。	・よく取り組んでいる。 ・校長先生を中心に、教職員の方が日々努力されていると思います。 ・外国人児童が学びやすい環境に努め、多様性のある小学校になることを期待します。	・外国人児童が学びやすい環境になるよう、今後も日本語指導員や外国人児童指導助手の先生との連携を続けていく。加えて、日々の学級での指導や、周りの児童の理解を進める取組も継続していく。

令和5年度　学校関係者評価書

鈴鹿市立合川小学校					
評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
豊かな心の育成	1　児童会活動の充実 ・学校行事や児童会活動、たてわり班活動などで、児童一人ひとりに「出番・役割・承認」の場や自他の違いやよさを認めさせる場を設け、自己肯定感を高める。 （児童アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」80%以上）	●児童アンケート71%（80%）	○高学年の児童は、児童会活動やたてわり班活動の場を通して、個々の役割を果たす経験をすることができた。 ○学習発表会では、発表会当日に向けて、相手意識をもって練習を重ね、本番では個々の練習の成果を発揮できた。 ●児童会活動やたてわり班活動のみが、自己肯定感を高めるとは言い難い。そのため、児童アンケート「自分にはよいところがあると思いますか。」の評価指標を検討する必要がある。	・校内の掲示物で児童会の取り組みを拝見してみて、前期・後期ともに児童会のカラーがあって目標も具体的で明確であり、素敵な取組だなぁ・・と感心していました。 ・学習発表会は、皆が活躍できていてよかった。 ・校長先生を中心に、教職員の方が日々努力されていると思います。 ・自己肯定感のアンケートは「ある」という回答は恥ずかしいと思うようです。皆、素直で優しい子だと思うので、大人もそこを見つけて褒めてあげたり、認めてあげたりする声掛けが、認め合いの連鎖を生むと思います。 ・自己評価は難しいと思います。個人差も出やすいと思います。日常、先生や友だちなど褒め合う機会がないと難しいとも思われます。 ・合川の子どもたちは照れ屋さんが多く、褒められてもうまく受け止められないのかもしれないですね。ほんとにどの子も素敵な子ども達なのに・・大人たちも素直に直球で褒めるばかりでなく、声掛けの変化球の引き出しを多く準備しないといけないでしょうか・・私も勉強します。 ・自己評価も大切だが、他人からの評価も取り入れてはどうか。 ・テーマを与え、スピーチ練習を行ったらどうか。	・自己肯定感を高めるための手立ての一つとして、学校の児童会活動やたてわり班活動の取組を充実させる。その他にも、自己肯定感の向上には多くの要素（家庭や他機関との関わり等）が関係していると考えられるため、評価指標の内容を検討していきたい。 ・児童の自己評価は、個人差や発達段階による差もあると考えられるため、他者評価等の内容も検討したい。（例：保護者アンケート「お子さんが、がんばっていることはありますか。」等） ・後期児童会目標と本年度の児童アンケートの結果を受けて、3学期の児童会活動では、2月に『合川小学校の有名人になろう』という取組を企画した。学校ではあまり伝えられていない自分ががんばっていることや好きなことを紹介し、見てもらう機会とした。この企画での児童の様子をみて、来年度の児童会活動に取り入れることも検討したい。
	2　自発的なあいさつの推進 ・あいさつ、チャイムを守った行動に重点を置き、教師が率先して取り組む。 （児童アンケート「自分から進んで気持ちのよいあいさつをしていますか」85%） （児童アンケート「チャイムが鳴ったら、席について勉強の用意をしていますか」100%）	○児童アンケート あいさつ89%（85%） ●児童アンケート チャイム81%（100%）	○児童会の取り組み、校長先生からの講話により、あいさつに対する意識は向上し、積極的に挨拶をする児童が増えたと感じる。 ●積極的に挨拶ができているか、相手に届くあいさつができているかという点で、個人差ができつつある。 ●教室移動の時に、時間に遅れる様子がみられる。時間を守る意識や時間に見通しを持たせることが必要である。	・毎朝、見守り隊で子ども達を見送りますが、日によってですが子ども達の方から挨拶をしてくれることも以前よりは増えたように感じています。これも日々の先生方のお声がけの成果だと思います。 ・合川の児童は、他校の児童よりよくできていると思う。 ・校長先生を中心に、教職員の方が日々努力されていると思います。 ・学校へ行くと、あいさつのできる子がたくさんいます。朝の旗当番の所では、皆おとなしいので心配になります。 ・学校外であのあいさつが出来ているかが大事だと思います。個人差があると思います。 ・子どものアンケートはしているが、家庭でどのような意識付けを行っているか聞いてみるのもいいと思う。 ・あいさつがきちんとできる児童が決まっている。個人差はあるがやらない児童はやらない。その原因はどこにあるのか。家庭でのしつけを知らない親が多いから、子どもがそのようになる。 ・学校生活だけでなく、家庭内の生活でも声掛けを。大人たちがいい見本になれるような行いをしていきたいですね。私自身も日々挨拶（運動）を行っていますが、やはり声をかけられる前に自分から言うのが難しいことも多いですが、自分からできなかったときはいつもより大きな声で返してみたりしながら取り組んでいます。挨拶1つで気持ちも変わる！この気持ちよさをより多くの子ども達に実感してほしいと願います。 ・達成状況の向上に努めてほしい。 ・地域の人との挨拶は大切だが、相手が不審者の場合もあり得るので心配な面がある。 ・教室移動で遅れてしまうのは、何かゲーム性を持たせて間に合うことをクラス全員で共通の意識になるように楽しく取り組めたらよいと思う。	・あいさつについては、教員から日々の啓発を行うとともに、児童会によるあいさつの啓発にも取り組んでいく。R5年度の取組にあった、「あいさつをする」「大きな声であいさつをする」「相手を見てあいさつをする」「自分からあいさつをする」などの、段階を踏んであいさつへの意識を高めたあいさつ週間は、有効だったと感じる。こういった取組を、継続していくことが必要だと考える。 ・チャイムでの始業、チャイムでの終業を、教室移動時でも守っていくことを思統一しなければならない（児童だけでなく、教員も）。 児童の発達段階に合わせ、学習の用意で大切なことや学習規律を子どもたちと確認しながら、時間で動けるよう指導していきたい。
	3　特別支援教育の充実 ・「すずっこファイル」に基づく教育を行うとともに、ファイルの見直しを図る。（毎学期） ・特別支援学級籍児童への理解を深める取組を進める。 （各学年1回以上）	○毎学期実施 ●全学年に対する特別支援学級籍児童への理解授業	○「すずっこファイル」を毎学期見直すとともに、必要に応じて支援体制を組んだ。 ○学校全体で支援を要する児童の状況や対応を共通理解し、支援をおこなった。 ○支援を要する児童への対応方法や「すずっこファイル」の有効な活用方法について校内研修をおこなった。（2回のうち1回は、子ども家庭支援課講師招聘） ○必要に応じて支援会議や保護者面談をおこない、医療や支援機関につなげることができた。 ●特別支援学級の理解授業を全学年で実施することができなかった。	・担任の先生の精神的な負担が非常に大きいと思いますが、早期に特別支援の必要性がなくなるよう学校全体で取り組んでください。 ・校長先生を中心に、教職員の方が日々努力されていると思います。 ・学校全体で支援を要する児童の状況・共有理解をしていただけていることはとても素晴らしく、保護者も児童も安心して通える学校であることの現れだと思います。 ・大きなイベント（運動会・学習発表）などでその取組を大きく発揮できていると思います。今後もこのまま続けていただきたい。 ・小規模の学校の強みととらえて是非、全学年を巻き込んだ特別支援学級の理解授業実施を検討してください。期待しています。	・今年度に引き続き、各行事において、事前に支援を要する児童の参加方法や支援体制を職員全体で相談・共有することで、児童が安心して参加できるように配慮していく。 ・特別支援学級の理解授業は、全学年において実施できるように、計画的に行う。特に、1年生に対しては、入学後の早い時期に授業を実施する。
	4　多文化共生教育の推進 ・多文化共生の授業を行う。 （各学年1回以上）	○教科・領域において外国の文化 に触れる取組を実施 ○多文化共生教育の授業を全学年で実施	○今年度は、外国語活動・外国語科、道徳、総合的な学習の時間に加え、モーニングイングリッシュなどでも外国の文化に触れる機会があり、ALTが常駐しているという強みを生かした取り組みができた。 ○12月開催の人権フォーラムのテーマが、外国にルーツのある仲間のためにできることを考えるというものであることを契機に、多文化共生理解に関わる学習を、2学期に全学年で行った。外国にルーツのある仲間にできることを考え、実践する子どもたちの姿も見られるようになっている。	・違いを認めあえたら、いろいろな考え方を理解し、心豊かになれると思います。 ・校長先生を中心に、教職員の方が日々努力されていると思います。 ・本当に外国人児童が在籍しているので、多文化を知ることは非常に良いことである。 ・ALT常駐の強みを最大限に生かし、今後もモーニングイングリッシュなどの取組をお願いします。 ・稲刈りのサポートの際に感じましたが、外国人の児童もクラスメイトとしっかり馴染み、理解できずにいる様子に気づいた人がタイムリーにサポートしている姿がとっても自然で素敵でした。先生と外国人児童、児童同士、お互いに向き合う姿勢ができる授業風景は理想的で、今後もこの取り組み、この体制を維持していただくことに期待します。	・外国にルーツのある仲間との関わりを振り返ったり、自国や相手国の文化のちがいを学んだり楽しんだりする機会が持てると、相互理解が進み、お互いの垣根は低くなっていくと考える。 今年度の人権フォーラムを契機に取り組んだ全学年での学習を引き継ぐため、次年度も多文化共生に関わる学習を継続的に行っていきたい。
安全安心な学校づくり	1　新たな不登校を生まない学校づくり ・教職員と子ども・子ども同士の温かい人間関係づくりに努める。 （児童アンケート「学校は楽しいですか」100%） ・日ごろから保護者との関りをもち、気になることがあれば早めに家庭訪問等を実施する。 （保護者アンケート「学校は、お子さんに対して親身になって対応し、一人ひとりを大切にした教育活動を行っていますか」95%）	●児童アンケート93%（100%） ○保護者アンケート96%（95%）	○保護者に子どもを学校へ送り出しやすい環境を整えてもらうために、担任が保護者とコミュニケーションをとり、保護者のサポートも同時に行った。 ○不登校傾向にある子も、学級の中で役割を持ち、仲間とともに活動するこで、学校へ来る日数が増えてきていると感じる。 ○欠席が続く児童には、Chromebookを活用し、授業の様子を配信している。 ○児童の日常の様子を関係職員間で情報共有し、不登校の長期化を防いでいる。 ●不登校が長期化する場合は、ケース会議を実施したり関係機関との連携を行ったりして、対応策を検討していく必要がある。	・児童を見かけたら、積極的に手を振ったり、挨拶をしたり、関わりを持っていきたいです。 ・不登校の真の原因は見付けにくいと思われます。先生方の負担も大きくなります。早期に面談、回数を増やすことが大事と思います。企業でもいろいろなトラブルが起こります。後回しにすればする程解決はしません。 ・今のままでよい ・保護者・児童両方とコミュニケーションをとり、家庭との情報共有は必須だと思います。 ・保護者と学校との信頼関係がないと解決できない問題だと思うのでこの取組は大変素敵です。 ・新たな不登校を生まない取り組みの1番大切なことは、先生と児童の信頼関係だと思います。そして子どもの異変に気付いた時、すぐに学校に相談できる窓口の広い学校であるべきだとも思います。異変に気付きながらも学校（先生）に相談できず、保護者間で相談し合って終わりというケースも多いと思います。まだ何も起こっていないから・・ではなく、気がかりなことが起きた時にタイムリーに情報を共有・相談できる場が常設されているといいなぁと思います。（案）相談窓口メールなんていうのがあれば学校に電話しづらい保護者さんもアクションを起こせるかも。	・不登校の要因は学校に関わる要因と、家庭に関わる要因など多面的な要素があり、様々な角度から観察していくことが必要である。 ・不登校傾向がある児童は、連続した欠席ではない場合も多くみられるので、保護者との連携を密にして対応していく必要がある。 ・スクールカウンセラーや、コーディネーター、担任、養護、不登校担当、支援機関と今後も連携を取り対応を進めていきたい。 ・左記にある（案）相談窓口メールについては、不登校対応では、不登校傾向が見られたら家庭訪問や電話などで、児童や保護者と連絡を取り合い実態把握を行っているのが現状である。保護者との対話を通して早期対応を心掛けているため、今後も保護者との直接的な連絡・相談・情報共有を積極的に行っていく。 ・不登校を生まないために「ここにいて大丈夫」と思える安心感のある学級づくりを行っていくと共に、日常的な観察や会話を通しての支援や、見守りをしていくことが必要である。
	2　いじめのない学校づくり ・人権教育を基盤とした集団づくりに取り組み、子ども同士のつながりを深める。 ・情報共有を徹底し、いじめをはじめとした問題行動の未然防止・早期発見・早期対応に努める。 （児童アンケート「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」100%） （保護者アンケート「学校は子ども同士のつながりを大切にし、いじめのない笑顔あふれる学校にするために努めていますか」95%以上）	●児童アンケート98%（100%） ○保護者アンケート98%（95%）	○児童の様子に気を配り、いじめアンケートや日々の子どもたちとの対話から得た情報を教職員間で共有し、実態把握を行ってきた。いじめ事象が疑われる場合は、複数体制で被害児童の思いに寄り添いながら対応を進めることができた。 ○職員会議で定期的に児童の気になる様子を交流し、全教職員が足並みをそろえて児童へ対応できるように努めた。 ○いじめ防止月間の取り組みの一つとして、全校児童が「いじめ防止川柳」作りに取り組み、いじめを生まない・いじめを止めるための意識づけをすることができた。 ●新たな不登校気味の児童への対応が必要。ケース会議	・以前、合川小で「いじめ」が発生し、関係者会議をしたり保護者会を実施して検討したが、いじめにあった児童は中学校に進学した今も「いじめ被害」にあっていると親は話していた。簡単に解決できる問題ではないと思っている。 ・先生方の対応も大変だと思います。少人数の学校で、まさかと思い残念でしたが、誠実な早期対応や、日頃から子どもとの会話が必要だと思いました。 ・いじめはアンケートには表れないと思います。早期発見をと思います。 ・核家族の家庭が多くなり、昔のように親世帯と同居する家庭が本当に少なくなり、子ども達も年寄りと生活していないので、思いやりの心がないに等しいと言える。思いやりがあれば、いじめには発展しないと思う。老人ホームに行って、子どもと老人がいろいろ遊ぶとよい。 ・引き続き情報共有してほしい。 ・今のままでよい。	・今後も、授業や行事を通じて、児童の人権感覚を磨き、いじめの未然防止に努めていく。 ・いじめアンケートの実施やアンケート結果からの聞き取りを行い、必要な事柄は職員間で情報共有をし、複数体制で早期対応を行っていく。 ・いじめが発生した場合は、速やかに学校いじめ防止対策委員会を開き、保護者や関係機関と連携し、情報共有や今後の対応策について協議する。

	3　登下校の安全確保 ・ＰＴＡや安心安全ボランティア等と連携し、登下校時の児童の安全確保に努める。 （児童アンケート「地域の人に見守られていると感じますか」100%）	●児童アンケート90%（100%）	○日々、PTAや安心安全ボランティア、地域の方々の登下校時の見守り、教員による登下校指導により交通事故は起きなかった。 ○登下校に際して危険が予想された場合は、教職員を中心に付き添いや見守りを行った。また、地域の方、PTA役員の方々にもご協力いただきながら、安全を確保することができた。	・オレンジブルゾンを見かけるたびに、合川の地域の力を感じます。 ・日々の見守り、ありがとうございます。毎朝、地域の方や校長先生が変わらずいらっしゃる事は、子どもたちも安心だと思います。 ・PTA保護者の登下校時の見守りの姿が下校時にはない。（フレンズは除く） これでよいのか不安である。地域住民からも下校時に親は見ないがそれでいいのかといった声がある。 ・イノシシや猿の出没、強盗などの事件もあり、見守り隊、先生方の見守り、警察のパトロール強化もあり無事故でいられたことはよかった。今後メール配信などで可能な限り見守りの協力をお願いしたいです。	・今後も、保護者や地域の方々と連携しながら、日々の登下校の安全を確保していく。 ・地域の方への日々の見守りへの感謝を、あいさつなどの態度や行動を通じて伝えられるよう、指導していく。
	4　防災教育・安全教育の推進 ・防災訓練及び安全教室を実施し、危険の予知・予測や判断力を高め、自分の命は自分で守れる児童を育てる。 （防災訓練年３回、安全教室２回実施） （保護者アンケート「学校は、子どもの安全確保を配慮して教育活動を行っていますか」95%以上）	○防災訓練２回実施、３学期にも実施予定 ○交通安全教室の実施と連れ去り防止教室実施 ○保護者アンケート100%（95%）	○1・2学期は、避難訓練を通じて、安全な避難の仕方、避難時に必要なことを確認することができた。1学期の避難訓練では、災害発生により下校が困難な状況を想定した引き渡し訓練を、保護者とともに実施することができた。 ○交通安全教室での自転車の安全な乗り方指導や、全学年を対象にした連れ去り防止教室を実施することができた。	・今のままでよい。 ・今後も続けてほしい。 ・防災訓練や安全教育をお願いします。 ・連れ去り防止教室での実践課題は実際に体験する事で低学年にもわかりやすく伝わったと思います。次年度も開催してほしいです。 ・各地区の通学路を歩いている子ども達自身が危険なところを点検し、認識し、気をつけることが良い方法だと思う。 ・お正月に起きた地震で子どもの判断力の高さに驚きました。携帯のアラームが鳴ると、いち早く机の下のもぐりこみ、ダンゴムシポーズをとっていました。机の下にもぐったまま「壁の揺れがなくなってから動くんだよ！」と冷静に祖母に指示する姿に訓練の賜物だなと感心しました。	・来年度も、避難訓練、安全教育及び防犯教育を実施していく。（R5が連れ去り防止教室だったので、R6は防犯教室になる） ・避難訓練や防災ノートの活用だけでなく、市教委から紹介されている追加資料なども活用し、防災スキルを身につけさせたい。

令和5年度　学校関係者評価書

鈴鹿市立合川小学校					
評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
開かれた学校づくり	1　鈴鹿型コミュニティ・スクールの推進 ・学校運営協議会での話し合いを基に、学校、地域、保護者が協働した学校づくりを進める。 （保護者アンケート「学校は、地域や保護者に信頼され、地域とともにある学校に向けて努力していますか」95%以上）	○保護者アンケート97%（95%）	○学校運営協議会で学校の現状を伝え、学校の諸課題を共有しながら教育活動を推進することができた。 ○R6年度から始まる複式学級設置について、その方向性や問題点を共有することができた。 ●今後も、複式学級設置についての現状と課題を共有し、協議を行っていく。また、「新しい学校設置」についても情報共有や具体的な取組について協議を進めていく。	・学校は地域や保護者との連携は取っているが、保護者は地域とはどのように連携しているのか。昔は地域に子どもがいる世帯は地域全体が保護者になっていた。だから、何かあれば住民は協力していた。今はそうではない。そのような現状を保護者はもっとよく知り、地域住民に協力を求める必要がある。 ・地域づくり協議会との連携強化をしていきたいです。 ・他校での地域とのかかわりや活動を紹介してもらう等、参考になるかと思います。 ・校長、教頭、担任の立場で気付いた点を記録に残し、今後の鈴鹿市に生かす。 ・いよいよ次年度から始まる複式学級。鈴鹿初の複式学級になるので見本もない中、開始する事への心配と不安は大きなものだと思います。多くの課題がある中、教育委員会へ具体的な要望も伝えて頂いているとのことなので、ベストな状態でスタートできるよう引き続き準備をお願いしたい。 ・合併や複式の課題が迫っているので、忙しいと思うのですが、複式への不安もあったり、担当される先生の大変さも理解してもらえるように、複式のテスト的な授業参観をされるのはどうでしょうか。 ・実践的な授業を行う予定だと以前の説明時に聞いているので、その風景も運営委員で見学をする機会をいただければな・・と思います。	・学校運営協議会で学校の現状を伝え、学校の諸課題を共有しながら教育活動を推進していく。 ・複式学級の設置状況や学級の様子、問題点等を報告し、改善点について協議する。 ・学校再編、「新しい学校」に伴う準備委員会や専門部会での検討内容や進捗状況を共有する。 ・学校再編、「新しい学校」設置に関わる合川小学校の課題を明らかにし、必要に応じて協議を行う。
	2　情報発信の推進 ・学校だより・学年通信・ホームページ・メール配信などを活用し、情報発信に努める。 （保護者アンケート「学校は、学校だより・ホームページ・メール配信等で、積極的な情報発信に努めていますか」90%以上）	○保護者アンケート93%（90%）	○定期的に学校だよりや学年だよりを発行し、学校や学年の様子を保護者、地域へ発信することができた。 ○緊急を要するものは、配信メールを活用し、速やかに保護者、地域へ情報発信することができた。 ●学校だより等と学校ホームページの更新時期がずれることがあったため、適宜更新する必要があった。	・学校行事のお知らせ等、ペーパーレス化されてもよいものがあると思う。（草刈り、廃品回収等）メールで見れると便利。 ・紙媒体も電子媒体もどちらも大切だと思います。 ・今のままでよい。地域の回覧板でも情報発信をしており、ありがたい。 ・自治会定例会等の場で児童たちの1か月の報告をしていただきありがたいです。	・学校だよりや学校ホームページの更新を適宜行う。
教職員の働き方改革	1　教職員の総勤務時間の縮減 ・一人当たりの月平均労働時間　30時間以下 ・年360時間を超える時間外労働者数　０人 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数　０人 ・一人当たりの年間休暇取得日数　２２日以上 ・設定した日の定時に退校できた職員の割合　90%以上 ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合　70%以上	●月平均労働時間37.6時間（R4:34.2時間） ●月45時間超時間外労働者延べ25人（R4:19人） ●年360時間超え時間外労働者2人 ●年間休暇取得日数9.3日（R4:11.7日） ●定時退校日実施率44%（R4:44.6%） ●60分以内に終了した会議34.5%（R4:14.3%）	●月平均労働時間が前年度より3.4時間増加した。また、月45時間超時間外労働者数も延べ6名増加している。原因としては、学校の状況により、それぞれの教師の空き時間を、支援が必要な児童の対応に充てなければならなかった。各教員が自身の学級や校務分掌の仕事を放課後に集中して行っていたため、労働時間が増加した。 ●複式学級設置に関わる準備の業務（時間割の作成等）に多くの時間が必要であった。 ○職員会議の前に二部会を実施し事前協議をしたことで、職員会議の時間を短縮できるようになってきた。	・教職員が憧れの職業になることを望みます。 ・学校での諸問題が勤務時間が長くなる原因になります。問題の起きない取り組みを行い、起きれば早期解決をすることで、総勤務時間を短縮につなげることが一番だと思います。 ・複式学級、3校の統合問題等、難しい問題があるので仕方がない。 ・これについては小規模学校のデメリットの面が大きく出たかなと感じます。 ・教職員さんの負担軽減のためにも職員の配置を訴えていきたいですね。	・定時退校日を定期的に設定する。設定日が形骸化しないように、その日は会議等の設定をしない。 ・教職員の定時退校の意識を高めるとともに、積極的な退校への声掛けを行う。 ・特定の教職員に業務が集中しないように校務分掌のバランスを考慮する。 ・教員の空き時間確保のため、支援が必要な学級については、市教育委員会に加配、支援員の増員を継続的に求めていく。